

知識情報・図書館学類誌

Milk^{No.3}

研究室訪問・

池内ゼミ

秋だ！学園祭だ！
雙峰祭特集

近未来書籍空間 &
院生プレゼンバトル
インタビュー

知識情報・図書館学類誌

M I L K No.3

Contents

- 004 特集：雙峰祭インタビュー
- 006 近未来な人たちに聞いてみた
- 010 院生プレゼンバトル
- 016 そうだ ゼミ、いこう。
- 018 Hop!Step!Trip!
- 020 open note
- 022 クロスワード：解答編

雙峰祭インタビュー

2つの目玉企画に対してインタビューしてきました。

■ 雙峰祭とは

上級生にとっては毎度おなじみ、下級生にとっては初めての筑波大学の学園祭です。全国の学園祭の中でも最大規模を誇り、例年来場者は約四万人にのぼります。1975年に開催された雙峰祭の前身の「紫桐祭」から数えて今年で38回目を迎え、非常に伝統のあるイベントとなっています。

3日にかけて行われ、日により開催されている企画も大きく変わります。場所は大きく分けて4つのエリア
「体芸エリア」「会館エリア」「第1エリア」「第2エリア」「第3エリア」で開催されており、約500の様々な企画や模擬店が存在しています。

特にしっかり分類されているわけではないですが、屋内企画に関しては芸術系の企画が「体芸エリア」、サークルの企画が「第1エリア」、学術系の企画が「第2エリア」に集まる傾向があるようです。特に学術研究が盛んな筑波大学ならではの「学研企画」や芸術学群の学生が描いた芸術系の展示企画は見所満載です。

ここでは興味のある分野が多く集まっているエリアを中心に歩くのもいいかもしれませんが、今まで知らなかったことに興味をもてたり学園祭以降から入会してみたくなるサークルも見つかるかもしれません。

野外では様々な模擬店があり、滅多に食べることのない食品と出会うこともできます。さらに、3つのステージで催されるイベントはもちろん必見です。

そして、最終日の夜に行われる最も盛り上がるイベント、後夜祭で雙峰祭は締めくくられます。3日間、朝から晩まで楽しめるのがこの雙峰祭です。

■ インタビュー

今回は今年もまた実施予定の2つの企画にインタビューに行きました。

・近未来書籍空間

知識情報・図書館学類の宇陀・松村研究室と附属図書館が主催の「遍在する読書空間」をコンセプトにした展示企画で、各自お気に入りの本の紹介を行い、いかに聴衆にその本を読みたいと思わせられるかを競う「ビブリオバトル」や、しおり作りなどもその中で行われていました。インタビューでは宇陀則彦先生、松村敦先生と、ゼミの皆様はその「近未来書籍空間」の裏話をお話いただきました。

・院生プレゼンバトル

「院生プレゼンバトル」(正式名称は「大学院生学際研究フォーラム」)は、つくば院生ネットワークの運営されている企画で、研究科や専攻を越えて集まった大学院生が、自身の研究に関するプレゼンテーションを行い、その能力を競い合うイベントです。そのつくば院生ネットワークの代表の方々に話を伺って来ました。

面白い企画はほかにもあったし、 勝てるかどうか不安だった。

近未来書籍カフェはどのようなようにして生まれたのですか？

松村先生…ある日ゼミ室で「やろう」って話になったんだけど、なにぶん二年前の事だからちよっと覚えてない・・・(笑)

常川さん…突発的な始まりであったことは確かです(笑)

学研企画としては異例の二年連続「雙峰祭グランプリ」を受賞したことについて、どう思いましたか？ 例えば・・・「当然だな」とか。

今満さん…「当然だ」とは思いませんでした。

米島さん…そうですね、当然だとは・・・。

今満さん…むしろ他にも魅力溢れる企画があったので、勝てるかどうか不安だった。

常川さん…最初は人があまり来なかったのですが、勝てるかどうか本当に自信がなかった。

松村先生…一年目は、確か雨が降ってたよね。雨宿りに来た人たちが集まるようになった。

米島さん…雨だと屋内企画は人が集まりますからね。

宇陀先生…一年目は勝てると思わなくてね、みんな帰っちゃったくらい。「雙峰祭グランプリ」発表の時に会場にいたのは・・・。

常川さん…確か宇陀先生と・・・四人はいなかったかな。とにかく一年目はバラバラだった。

雙峰祭企画！！

近未来な人たちに聞いてみた

今年も雙峰祭の時期がやってきた。普段外に出て元気な人も、部屋で趣味を楽しんでいる人も、心がウキウキする時期である。雙峰祭には、「雙峰祭グランプリ」という賞があることを御存知だろうか。雙峰祭で最も優秀だと思われる企画、いわば、「面白かった！」「また行きたい！」と思えた企画に来場者の方が投票し、その最優秀賞として企画団体に贈られるのが、「雙峰祭グランプリ」である。その「雙峰祭グランプリ」を2年連続で受賞した驚くべき企画団体がここ、春日エリアに存在する。

最優秀に輝いた企画の名前は、「近未来書籍カフェ(2010年度)」、「近未来書籍空間(2011年度)」である。これらの企画は宇陀則彦先生、松村敦先生、そして宇陀・松村研のゼミ生と附属図書館職員との合同企画によって運営された。そんな近未来な彼らに迫る！

今回取材に協力して頂いたのは、宇陀則彦先生、松村敦先生、また、ゼミ生の今満亨崇さん、常川真央さん、そして米島まどかさん、以上の五名である。今満さんは二〇一一年度「近未来書籍空間」の責任者を担当され、米島さんは今年度の雙峰祭の宇陀・松村研の企画責任者を担当されている。また、常川さんは、「近未来書籍カフェ」、「近未来書籍空間」で開催されたイベントの一つであるビブリオバトルの企画運営を担当されていた。

「近未来書籍カフェ」と「近未来書籍空間」は、ビブリオバトルなどの、多くのイベントを開催することで、来場者を楽しませていた。ビブリオバトルの他にも、子供のための企画や、学長や国立国会図書館長が選書された本棚を展示したり、ゼミ生が各自タイトルを決めて本棚を展示したりすることで、老若男女すべての年齢層の方に楽しんでもらえるようにしていた。これらの企画を運営するにあたっての裏話を聞いてみた。

注 常川真央さんは知る人ぞ知る「ビブリオバトル兄さん」である。なぜそう呼ばれるのかを知りたい諸君。今すぐにYouTubeで「ビブリオバトル首都決戦2011 決戦④」と単語を並べて調べてみよう。そこには常川真央さんの「ビブリオお兄さん」と呼ばれるにふさわしい勇姿が見られる。

松村先生…僕は何人かの学生と研究室で中継を見ていました。学研企画の発表を見て、やっぱり駄目だったかと思いましたが、グランプリで名前を呼ばれた時は「えっ！？」って。その後「やったー」って大声あげてました。

発表を見てから会場に向かったのですか？
松村先生…いや、行ってないです(笑) 研究室で待っていました。

常川さん…二年目は会場でちゃんとスタンバりましたけどね。
どうして二年連続で受賞できたと思いますか？

常川さん…僕は、そこに滞在できるイベントがたくさんあったからだと思います。大人の方を対象としたビブリオバトルだけでなく、子供向けの企画なんかもあったので。

松村先生…空間を魅せるイベントを準備したからかな。子供でも楽しめるようにと意識しました。その結果、二千人くらいは来てくれました。

常川さん…何か面白いことをやりたいって人もいたり、みんなバラバラだった。でも、それ全部を詰め込んだっていうのが、この「近未来書籍」の面白いところだと思います。

◆ 「近未来書籍カフェ」ということは、食べ物も提供されたんですか？
全員…・・・。

常川さん…いや、「カフェ」ってついているけど、食べ物はないという・・・。
今満さん…本当はカフェにしたかったんですけどね・・・。

常川さん…まあ、図書館の中にカフェっていう構想自体が「近未来」という。

松村先生…「カフェなのにどうして食べ物や飲み物がないんですか」って、当時のアンケートでも書かれていて、「そりゃそうだよなあ」って(笑)

宇陀先生…だから二年目は「近未来書籍空間」という名前にしました。少しだけ名前が違っているという。

常川さん…そもそもどうして「カフェ」って名前をつけたのかというと、研究室の中でカフェをやりたいって提案する人がいて、最初は食べ物も出すつもりだったんです。それが図書館の制約で駄目になってしまっ・・・。

◆ みんながやりたい放題やるということで、当時はいろいろ大変だったと思いますが・・・。
今満さん…そうですね、私自身もやりたい放題やったので、まとめるのは半分くらい放り投げていたけど(笑) ただ、雙峰祭当日は全くまわらずに、色んな調整で奔走しました。

常川さん…大変だったことといえば、本を集めるのが大変でした。展示に使用した本はすべて一回貸出を受けてから展示したものです。色んなところから本を借りてきました。

宇陀先生…借りるっていう作業は、全部図書館内部でやってくれました。

◆ それでは、この近未来書籍カフェ/空間に並んでいた本はすべて筑波大学の図書館で借りられるのですか？

松村先生…はい、ほとんどの本はそうです。ただ、絵本は個人持ちです。子供は何をするかわからないので・・・。五人くらいで一人十冊持ち寄りしました。

宇陀先生…二年目は、読書は色んなところでもできるよってっていうメッセージの発信として、家のいたるところの空間を図書館内で再現しました。台所とか、子供部屋とか、お風呂とか。バスタブを図書館内に持ち込んだりしてね(笑) あと公園というテーマもありました。公園だから、春日エリアの中庭からベンチも図書館に持ち込んで(笑)

◆ バスタブやベンチを図書館に運んだのですか！大変な点はありませんでしたか？
今満さん…ベンチを借りたいてって学生支援室に言ったら、「紙に書いて」って言われて、そのまま書いて・・・。借りる時はそんなに大変じゃなかった。

松村先生…ただ、持つてくるのは大変だった。トラックが来ないハブニングがあったよね(笑) バスタブを東京からトラックに積んで運んできてもらうから、そのままそのトラックにベンチも積んで持つていく予定だったんだけど。
宇陀先生…バスタブは東京じゃなくて、横浜からですよ(笑)

松村先生…そうか、横浜だった。わざわざそこまで行ってたんだ(笑) トラックが時間になっても来ないから、もうしょうがないってなって、学生の車にベンチを乗せて、中央図書館まで運びました。普通の乗用車にベンチを積み込んだので、

壊れるんじゃないかと思った……。宇陀先生…もうそのベンチじゃなくてもいいんじゃない？って言ったんだけど、担当の学生が「この（春日エリアの中庭にある）ベンチじゃなきゃ嫌」って言ってたから（笑） じゃあ運ぶかってなって。ほんと大変だった。

◆ ◆ ◆
宇陀先生…そういえば、「近未来書籍空間」の時は天井にも仕掛けを作りました。
松村先生…いらなくなった図書を図書館から貰って、紙飛行機をつくりました。それを「EPO」とセツトで天井につるして、天井に飛行機の影が映るようにはしました。展示が終わった後、部屋を真っ暗にして、音楽も流しつつ、床に寝っ転がりながら天井の飛行機を見て（笑）



天井で紙飛行機がライトで照らされている様子。
「近未来書籍宇宙 #1」落合陽一さん（情報メディア創成学類卒業生、現在は東京大学大学院に在籍）のブログから拝借しました。

常川さん…これはもともとあったイベントというよりは、レイアウトのデザインを担当していた落合くんが突発的に思いついて、作ったものですね。斬新だけでなく、幻想的な仕掛けも施してたんですね。

◆ ◆ ◆
それでは、今年は一体どうなるのでしょうか？
米島さん…今年「近未来書籍ラボ」になります！
宇陀先生…カフェから空間へ、そしてラボへ！
米島さん…もうちょっと研究色を出してもいいんじゃないか、ということ。「近未来書籍ラボ」になりました。

◆ ◆ ◆
宇陀先生…三年目にしてようやく普通の学研企画になるといふね（笑）
常川さん…今までやりたいことをやってきたけど、まあ今年度は卒業にも関わること。…
松村先生…自分が作ったシステムなどを全面的に出そうっていう試みですね。

◆ ◆ ◆
どんな企画が用意されているのでしょうか？
松村先生…それはまあ…見てのお楽しみというところで（笑）

◆ ◆ ◆
宇陀先生…そういえば、「近未来書籍カフェ」のカフェの部分をどうしてもやりたいって学生がいて、「書籍カフェ」のスピノフで、「近未来書籍ラボ」

学生が「この（春日エリアの中庭にある）ベンチじゃなきゃ嫌」って言ってたから（笑）

とは別に企画するって話を聞いたことがある。食べ物企画かな。「近未来」になるかどうかはちょっとわからないけど（笑）
今満さん…心残りがある企画とか、もっとやりたかった企画をやる予定です。

◆ ◆ ◆
今年度もビプリオバトルはあるのでしょうか？
常川さん…あります！今年度のビプリオバトルは屋外のユナイテッドステージでやりますよ！
実は春日キャンパスでビプリオバトルをやっている団体があるんですが、その団体の方にも手伝わってもらう予定です。もちろん僕も出場する予定です（笑）
米島さん…時間は夜ですかね？
常川さん…十五時半の予定です。

◆ ◆ ◆
ボタンを配って投票してもらおう形式ですか？
常川さん…いや、人手で数えるやり方になると思います。公式ビプリオバトルもそうやって集計してるんですよ。

◆ ◆ ◆
研究室全員が一丸となって取り組むのですか？
松村先生…まあ、雙峰祭の翌々日から中間発表が始まるから…。

◆ ◆ ◆
えっ？ 中間発表が翌々日から？ それじゃ、企画の準備をしながら発表の練習を…？

米島さん…そうですねー。去年は、朝十時から十七時までが企画の時間なので、それまではずっと企画に集中して、そのあと研究室に行つて十九時から二十時まで発表用のスライドを作つて、そのあと発表練習をする形でしたね。

◆ ◆ ◆
た、大変ですね…。
米島さん…まあ…実はキツイなかでの中間発表だったという。

◆ ◆ ◆
今満さん…先輩が脅かしてました（笑）「中間発表は大変だぞ〜」って。
米島さん…脅されながらも…でも頑張ります。

◆ ◆ ◆
松村先生…二年目だったか、言われて嬉しかった言葉があつて、「あれ（近未来書籍カフェ）がやりたくて筑波大に入りました」って。今何年生だろ？
米島さん…今の（大学）二年生ですかね。

◆ ◆ ◆
学生の中には、「今年は企画をやらなくて研究に集中したい」という人もいるのでは？
今満さん…いや、そこは…そこは好き放題やりたいから…。

◆ ◆ ◆
松村先生…うん、僕らも好き放題にやらせたい。僕の場合はまあ、子供企画に力を入れさせてもらつて。常川さん…楽しい面も残しつつ…。

◆ ◆ ◆
宇陀先生…予測がつかないような、新しいことを見つけて。

◆ ◆ ◆
松村先生…今年度の企画のメンバーの半分が新しいメンバーなので、また面白いアイデアが出るんじゃないかと思えます。

◆ ◆ ◆
米島さん…今年度の責任者なので、一応みんなのアイデアは耳にしているんですけど…。なんていうんですかね、本当にいろいろあるみたい（笑）

◆ ◆ ◆
この近未来シリーズの企画をするにあたって、図書館側の反応はどうでしたか？
宇陀先生…「面白そうだね」って言ってもらえました。担当の方が面白がつてくれて、非常に協力的でした。「なんでも借りちゃって〜」って言ってもらえましたからね。ただ、「飲食だけはだめですよ」とだけ（笑）紙飛行機のイベントの時も反対することなく、すんなりといきました。何されるかわからない不安もあつたでしょうに…。そこは具体的に説明したかいがあつたかな、と思います。

◆ ◆ ◆
常川さん…やっぱり、借りたい本を見つけないのが大変だった。
宇陀先生…探すのも図書館の方が手伝ってくれました。ラックに入れてもらつて。作業してもらつてもありましたね。四百冊くらい図書館の方に借りて貰つたのかな。本当に感謝です。

◆ ◆ ◆
図書館の方の協力なくしては実施しえなかった企画なんですね。
松村先生…今年度は例年よりも研究色を出した「近未来書籍ラボ」なので、この企画をきっかけに僕らの研究室に見学に来てもらうということも大丈夫です。どんなことやってるのか気軽に見に来てください。

◆ ◆ ◆
もちろん、研究室選びに悩む三年生だけでなく、一、二年生の方も大歓迎ということでした。ご協力してくださった皆さん、ありがとうございました。

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆



写真：（後列右から）松村敦先生、宇陀則彦先生、青木美紅さん、小林映里奈さん、堀智彰さん
（前列右から）常川真央さん、今満亨崇さん、米島まどかさん

画像提供元

Indicatable Media Lab

<http://ochiyai.com/>

今年度の雙峰祭で企画される「近未来書籍ラボ」については、九月半ばから広報が始まるようです。Twitterのアカウントを持っている方は是非がまじやんぱー先生 (@gama_jumper) のフォローになって、「近未来書籍ラボ」の情報を得てみてはいかがでしょうか。

院生プレゼンバトル

— つくば院生ネットワーク —

みなさんは、院生プレゼンバトルをご存じだろうか。昨年、雙峰祭の学研企画に筑波大学が総合大学であることを生かした「院生プレゼンバトル」という企画があった。昨年は三日間で延べ一〇〇人以上の人がこの企画に足を運んだ。

今年の雙峰祭でも「院生プレゼンバトル」は実施される。企画名に「院生」が付くからといって、学類生が楽しめる。企画名に「院生」が付くからといって、学類生が楽しめる。企画名に「院生」が付くからといって、学類生が楽しめる。企画名に「院生」が付くからといって、学類生が楽しめる。

今回、本誌ではこの企画の管理・運営をしているつくば院生ネットワーク(TGN)の方に、プレゼンバトルにどのような意義があるか、昨年の企画とどう変化するか、また雙峰祭以外でのつくば院生ネットワークの活動などについて、院生プレゼンバトルの企画責任者である上道茜さん(システム情報工学研究科博士後期二年)、松原悠さん(教育学類四年)にお話をうかがった。

「院生がやる」しかも

「研究」のプレゼンである

はじめにお伺いしたいのですが、院生プレゼンバトルは、既にあったものですか？ それとも独自に作り上げたものですか？

口頭発表部門は本戦と

予選に分かれています。予選は六ブロックあり、ブロックごとに一名ずつ計六名を選抜します。その六名が本戦に進みます。予選は学園祭の一日目、本戦が三日目に行われ、それぞれ同じ基準を用いて、審査が行われます。もちろん点が低い人が勝ちです。もう一つのポスター発表部門は、二日目の午前か午後のコアタイム中に来てくだされば審査できます。コアタイムは午前、午後にそれぞれ一時間ずつ設けられていて、ポスターの発表者が直接、来場者に説明します。それを聞き、いいなと思った人にシールを貼ってもらう予定です。実は大学院生は両方の部門に登録することもできます。口頭発表部門の審査については審査項目を作成しているのです、それに沿って点数を付けます。要旨等は全て会場で配付するので、受付をすれば審査員になることができます。審査の項目はどのようにして決めましたか？どこに既存の基準があるのですか？

上道 評価項目はTGNで独自に決めました。実は昨年の評価項目とは異なっています。昨年はプレゼンの上手い人を選ぶという企画だったので。でも、実際にやってみて、院生だからと研究を重視したいと考えました。研究はとて広い分野の中の狭い部分を深くやっている。そのことをしっかり説明し、さらに自分の手法・方法がどれだけオリジナリティを持ち、価値があるのかをきちんと説明できるか。文系・理系関係なく、どんな研究もよりよい社会づくりのためにあるものなので、発表者が聞き手を納得させ、聞き手の意識

上道

プレゼンバトルという単語は非常に汎用性があります。ビブリオバトルも一種のプレゼンバトルです。知識情報・図書館学類の学生(以下、知識)はそれがわかりやすいかなと思います。ただ、プレゼンバトルのコンセプトとして盛り込みたかったのは「院生」と言う部分です。ただのプレゼンではなく、「院生がやる」しかも「研究」のプレゼンであるところを推したいと思っています。その面について、オリジナリティはあると自負しています。

上道

他大学と同様の取り組みがあることを聞いたことはありませんか？
今のところ確認していませんね。よくこのような活動で「サイエンスカフェ」が知られていると思います。あるテーマで一人が話をし、お客さんがそれを聞いて、ディスカッションをするような形態です。これはよくある方式ですけど、その方式では院生や研究者が一方的に話をし、聞き手は聞くだけ終わってしまいがちです。それだけでは聞き手は満足度が低い。バトルにすることで何がかわるかという、聞き手がより参加、参加している気持ちになれるのではないかと考えました。点数をつけることで発表者のことを聞き手がどれだけ理解しようとしたかが分かる。このような点が、サイエンスカフェと異なると思っています。さらに院生プレゼンバトルは質疑応答も可能です。去年までは曖昧でしたが、今年は審査項目に入りたいと思っています。私たちは、参加者側の目線で、どのように聞いたら楽しいかを考えています。

上道

プレゼンバトルの発表者は、応募後に審査はありますか？ また応募する時に条件はありますか？
審査は特にありません。筑波大学の院生なら誰でも参加できます。ただ、研究室によっては研究成果を論文文化していない段階であったり、学外に共同研究者がいる場合には同意を得ずに発表してはいけない場合があるところもあります。研究室や研究グループの意向に反した研究情報の流出を防ぐために指導教員からの許可が得られることが条件です。逆に、それさえ得られれば誰でも出場できます。

上道

筑波大の院生なら気軽に参加できるのですね。私たちはエンターテイメント性を大事にしたいなと思っています。アカデミックな内容であるにもかかわらず、点をつけることができ、好きな質問をできるような点でも楽しげな雰囲気。クイズ番組のようなエンターテイメント性は確保したいと思っています。ですから気軽に研究が少しでも楽しいと思ってもらえたらと思います。

上道

当日、来場してくれた人は全員審査員になります。審査員は三日間ともそれぞれあります。部門としては口頭発表部門とポスター発表部門の二つがあります。



図2 口頭発表部門、ポスター発表部門、および予選の流れ

上道

昨年の来場者は本戦が三〇〇名以上、ポスター発表は八〇〇名以上です。昨年の予選は学園祭前に実施したので、その時の人数は不明です。本戦は立ち見が出るほどたくさんの方が来場してくれました。

上道

昨年の企画についての報告を書かれたそうですね。サイエンスコミュニケーションを目的とした科学技術コミュニケーション(JJSC)という専門誌に、昨年の代表石田尚を筆頭著者として、山田信博学長、逸村裕教授、三波千穂美講師といった三名の教員の方にも共著者になってもらいました。

松原

この報告書を執筆した理由があります。これは院生プレゼンバトルの「つくり方」をまとめた報告です。筑波大だけでなく、他大学でも院生プレゼンバトルを実施してほしいという意図を込めてこれを書きました。それは最後の「おわりに」に集約されています。

上道

他の大学でも院生プレゼンバトルが開催されるとうれしいですね。実際に筑波大学だけで考えても、他学類・他研究科が何をしているかは名前からだけでは判断できない。さらに、院生になるとサークル等もコミットできなくなるし、他研究科・他分野の人たちだけでなく、研究室外の人と話す機会がどんどん少なくなっていくのです。でも本当の研究分野にフィードバックされて、より研究が進むことがけっこうあるんです。ですから院生プレゼンバトルは、もちろんプレゼンをして賞があり、人に評価してもらおう面もありますが、院生同士がお互いのプレゼンを見ることによって他の分野を知ることができる面も一つの目的にしています。

上道

院生プレゼンバトルのキーワードは次の三つの言葉に集約されます。「サイエンスコミュニケーション」、「異分野コミュニケーション」、「多分野コミュニケーション」です。院生プレゼンバトルは、学

【審査項目】

Story(15点満点)

論旨が明快で、筋道だったストーリー展開であったか。

Originality(25点満点)

発表者の研究について、研究分野での位置づけと独自性が明瞭であったか。

Technique(15点満点)

理解を助けるための表現技法は優れていたか。

Awareness(20点満点)

あなた個人の意識に変化が生まれたか。

Society(25点満点)

研究の社会的な価値を伝えられていたか。

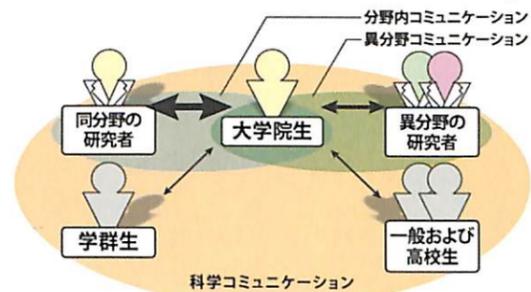


図1 本報告における大学院生を中心とした科学コミュニケーションに関する語句の扱い

園祭に来た一般の人に伝えることができる(II)「サイエンスコミュニケーション」。そして、ある研究科の院生が、他の研究科の人に向けて自分の研究分野の話をする(III)「異分野コミュニケーション」。様々な研究科の、複数の院生たちが異分野コミュニケーションをすることによって、お互いの研究内容を知っていく(II)「多分野コミュニケーション」。こういった内容を目指しているのが院生プレゼンバトルです。この報告を読み、他大学の人が「こんな活動があるのか。自分の大学でもやろう。」と思うたり、学内でも学類の研究室同士でこのようなプレゼンバトルの機会を設けたりすることで、更に自分の学問領域に対する理解が深まると思っています。

「おわりに」はぜひ読んでもらいたいですね。ところで、院生プレゼンバトルと連携した授業があるとうかがったのですが。上道 連携している授業は二つあります。松原 一つ目が「第一線研究者 教員プレゼンバトル」です。TGNが「プレゼンが上手い」という評判のある先生方をお招きし、その先生に自身の研究

をプレゼンテーションしてもらい、それを大学院生が見て、スキルを学ぶ授業です。教員が研究の場に戻って、どのような研究をしているのか知る機会はなかなかありません。せっかく筑波大学は総合大学なので、異分野間での学術的なコミュニケーションをできるインフラを授業という形で整えようという意図もあります。松原 総合大学ならではの取り組みですね。全く知識のない院生が異分野の先生の発表を聞いて、基本的な質問であっても思ったことをなんでもその場で聞けるというような雰囲気重視しています。上道 この授業の英語名「What's My University of Tsukuba?」には、もうひとつの願いがこめられています。この授業を聞くと、筑波大学でどんな研究をしているかを垣間見ることができるといって、仕組みになっています。工夫点としては、それを実施するにあたり、研究科の優秀のイメージをつけないために、学長に担当教員になってもらったことです。これは、大学の中で一番フラットである学長という立場を活用させて頂いています。また、同じくフラットな立場である教育イニシアティブ機構の野村港二教授にも担当教員になっていただきました。松原 教員プレゼンバトルは三つのパートから構成されています。まず、教員による一五分の研究プレゼン、次の一五分で受講生からの質疑応答が行われます。さらに、教員によるプレゼンでの工夫などを一五分の講義で「種明かし」します。一日当たり三人の教員にプレゼンをして頂いています。学

類生の聴講、いわゆる「モグリ」も歓迎しています。実際に知識の学生も来ています。上道 学園祭までの期間も隔週で行っているのでぜひ来てください。この授業を履修している院生には、院生プレゼンバトルの審査員が発表者か運営者になってもらうことが、単位の条件になっています。これが院生プレゼンバトルと授業との関係です。上道 もう一つあります。この授業では、受講者が各先生のプレゼンや研究内容に対して百点満点で評価を行っています。院生プレゼンバトルで審査する審査項目とほぼ同様です。先生の中で点数が一番高かった方に今年の院生プレゼンバトル、十月八日の口頭発表本戦で特別講演を行って頂く予定です。そこでもう一度見る事ができます。図1-2 石田ほか三名 筑波大学における「院生プレゼンバトル」の事例 報告「科学技術コミュニケーション」2012, vol.11, pp.63-73

『日常的にシャワーを浴びるように』 良いプレゼンを聞く』

上道 そもそも、プレゼンはどのように上達すると思いますか？ 勉強はしますか？ 日常的にプレゼンをする機会はありません。うまくなるには、場数を踏むことが大切なのではないかと思えます。上道 そう、場数です。自分がプレゼンするという場数も踏む必要があります。しかし、プレゼンを学ぶ上で私たちの考えとしては、自分でプレゼンする場数と同様に他人の良いプレゼンを聞くという場数も踏まなければならないと考えています。この授業ではコンセプトとして、「日常的にシャワーを浴びるように良いプレゼンを聞くことで、能力

を向上させることができる」と言っています。教員プレゼンバトルは「浴びる」方です。TGNは教員プレゼンバトルにどう関わっていますか？

松原 教員プレゼンバトルは三つのパートから構成されています。まず、教員による一五分の研究プレゼン、次の一五分で受講生からの質疑応答が行われます。さらに、教員によるプレゼンでの工夫などを一五分の講義で「種明かし」します。一日当たり三人の教員にプレゼンをして頂いています。学

院生プレゼンバトルに関わっているメンバーは、どのくらいいますか？ 上道 今は十五人くらいです。十五人というのはコアメンバーで、当日の運営はもっと必要ですね。昨年は当日運営も含め、二十六人いました。今年も学園祭までに三十人程度になる予定です。この記事を読んだ知識の学生で運営をやってみたいという方は、どうぞよろしく願います(笑) 最後に一言、お願いします。

上道 まず、教員プレゼンバトルは「このような科目を作りたい」という企画の段階からですね。松原 どういう手法でこの授業を実現させようかと考えました。大学院共通科目の担当の先生をはじめとし、様々な方と僕らとで話をし、アイデアを出し、さらに授業の目的やシラバスも作り直しました。またTGNのメンバーがTFをしています。

上道 プレゼンを引き受けてくれる教員の交渉にもあたりました。開講のお知らせなどのポスターも作成しました。あとはUstreamも配信しています。それについては、Facebookを見て頂ければ最新の情報がわかります。TGNのTwitterアカウントもあり、授業内容の実況も行っています。松原 聴講者もハッシュタグを付け、つぶやいています。さらにTgetterでオフィシャルにまとめを作成しています。これは興味を持ってもらうきっかけとして使ってもらえればと思います。Ustreamも配信していますが、最新のものが上がっています。しかも一番面白いであろう「種明かし」は配信していませんので、ぜひ聴講に来て下さい。なんといいっても、教員プレゼンバトルは、学生による学生のための授業ですから。上道 学生は授業を作れる！

今年度の雙峰祭で二度目の開催となる院生プレゼンバトルは、異分野の研究を知るいい機会になるだろう。ぜひ足を運んでみてはいかだろうか。

松原 今回、TGNが教員プレゼンバトルという授業をつくれたように「学生も大学にもっと積極的に関わっていいんだ！」って思ってもらえたらうれし

い。そして、もう一つの場合である実践の方は大学院共通科目の「異分野学生の協働によるコンテンツ開発演習」のトラックの一つ、逸村裕先生が担当されている(4)異分野間コミュニケーションのためのプレゼンテーション・バトルです。様々な研究科の院生に対して、自分の研究分野をわかりやすくプレゼンする経験を積むことができます。教員プレゼンバトルと異なる点は、自らアクティブに学び、自分で発信することでプレゼンの手法を学ぶ点です。この授業も学園祭まで隔週で開講しています。内容は異分野コミュニケーションに特化したプレゼンをするための授業です。受講者全員が何かのタイミングで発表をしなければなりません。それに対して受講生や先生も交えてディスカッションを行います。

上道 発表を聞くのは受講者だけです。前回は知識の学生も見に来ていましたね。上道 聴講をしている院生や学群生もいます。前回は知識の学生も見に来ていましたね。

上道 発表を聞くのは受講者だけです。前回は知識の学生も見に来ていましたね。



今回取材に協力して下さったTGNの皆さん

Web @TGN_Account (Twitter アカウント) #PresenBattle (ハッシュタグ) http://tgn.official.jp/ つくば院生ネットワーク公式 Web サイト

知識生情報

テーマ 筑波大学に入って驚いたこと・思ったこと

このコーナーではアンケートに寄せられたみなさんの意見を紹介していきます！
第2号のアンケートは！！なんと1枚でしたあああ……。ご協力してくださった方、ありがとうございます！
そしてアンケートを出していないみなさん！出しましょう！いや、出してください！お願いします！
今回のテーマは、「筑波大学に入って驚いたこと・思ったこと」です。

筑波大学に入って驚いたこと・思ったこと

文科省のモルモットになった。

教育の実験室。

暗い……。

アンケートを投稿して下さった方は、筑波大学で一体何を見てしまったのでしょうか……！
もしくは、アンケートを投稿された方が実際に実験体にされてしまったということなのでしょうか……！
なにはともあれ、大学生活をエンジョイしているようでよかったです。

私は本学と春日間の距離が遠いことに驚きましたねー。ぎりぎり15分で行ける距離ではありますが。
「次の授業に間に合わない！」と言って自転車を全力でこいでいると、角から飛び出してきた歩行者や
自転車、青信号から赤信号への変り目に交差点に飛び出したりと、危険なこともやっと思いがちです。
みなさん、事故には気を付けてくださいね。

次回

春日キャンパス内のお気に入りの場所はどこ？

「シンデレラ階段のすぐ近くにあるソファー」「フリスぺ」「空き教室」などなど、皆さまの回答をお待ちしております！
個人的にはラウンジの裏にある自動販売機が設置されている場所が気に入ってます。
理由は特になく、ただホッとするから……。そんな理由でもOK!! 皆さまの回答を待ってます！！

c r o s s w o r d

問題編

ヨコのキー

- 万葉集の一節。
我が待ちし ○○○○ぬ しかれども
萩の花ぞも いまだ咲かずける
- みんなが知っている童謡、貴方も歌ったはず！
♪ ○○まきまき○○まきまき
ひいてひいてトントントン ♪
- 北原白秋が作詞した童謡「赤い鳥小鳥」。
赤い鳥、小鳥が赤いのは、○○○○を食べたから！
- 普段私たちはそれに座って講義を聞いてます。
- オナラが臭い動物として知られる動物といえば？
- ある鷹は爪を隠す、そんな人になりたい。
- 日本の民話のひとつ、○○かに合戦。みんな、人をだましちゃだめだぞ！
- 虚無主義を英語で○○○ズムと言います。

タテのキー

- 2人でひとつの傘を……。いいなあ〜。
- 難易度★★★！エクアドル共和国の首都は？
- 2012年5月21日に○○日食がありました。
- 10月の第2月曜日は何の日？
- 夕暮れ時の空の色は？
「らんま 1/2」の乱馬の婚約者の名前と同じ！
- スイカ、カボチャ、メロンは同じ○○科の仲間！

1	2		3	4	
5					
		6			
7	8				
				9	10
11			12		

ゼミ、 そうだ 行こう。

二学期になり、三年生はついに研究室決めが近づいてきましたね。一、二年生もゼミがどんなものなのか気になってきたり、既にゼミに入られている方も他の研究室がどんなことをしているか気になってくるかもしれません。というわけで、今回のゼミ訪問は二年生以上なら知っているであろうインパクトの強いあの先生を訪ねてきました。

池内淳先生

■ゼミの様子

まずはゼミの風景を一部見学させていただきました。院生の方が研究計画について報告されていて、先生はインタビュの対象について、その基準や選定方法について鋭い質問をし、それに対して発表者が答えていくという形で進んでいきます。一通り先生とのやり取りが終わると、他のゼミ生からも質問を受けます。

研究計画についての質疑が終わると、次は夏季休業中の研究スケジュールや課題の計画についての予定も報告されていきました。二十冊近くの本がたんまりと積まれていて、それをそのゼミ生がこの長期休業中に読むそうです。ここまでで一人分の発表が終わり、大体四十分ほどかかっていました。

終始和やかな様子でしたが、先生曰く、いつもと雰囲気違ったようで、やはり取材を受けているところでしたのでいつもの様子はゼミの方々のみぞ知る、という感じなのでしょう。しかし先生とゼミ生の間のコミュニケーションが親密であることは一部を見せていただいただけでも伝わってきて良い雰囲気でした。

■インタビュ

I: それではインタビュに入ります。まず、どのくらいの頻度でゼミをしていますか？
Z: 毎日だよな。
I: ええーっ？！
Z: ごめん、週一。週一だけみんな来ないんだよ。毎回来る人って何人かしかないんだよね。まあ、就職活動とかあるからね。

I: (笑) ゼミの活動として、夏休み中の合宿があるとかはありましたか、どのようなことをする予定ですか？
Z: あー、それについてはしおり委員長に。

I: 見ます？ 自信作です。
Z: ありがとうございます。

Z: 合宿先に出すのが恥ずかしい(笑)
I: 血反吐を吐くまで勉強しようという。今年は伊豆。なぜ伊豆かというと、強制的に水着になって痩せるため。

I: (笑) そんなの行くところが無いからだよね。担当教員が定年になってしまったり、他大学に移籍してしまったり……。

Z: まあ、そうですね。

I: あ、俺が答えちゃだめだ。しばらく席外す……好きなように……。

(ここで池内先生退室。)

— それではゼミ生の方お願いします。

Z: やりたいことがぼんやりしている段階でも受け入れてくれる先生が池内先生だった。

— ありがとうございます。他の方は？

Z: 私は他の先生と迷っていたのですが、池内先生が今決めないと入れないよって。

Z: 池内先生は、早く面談に来るようなモチベーションの高い人を探りたかったのだと思います。

Z: 私は一つ上の先輩に先輩の所属するゼミについて話を聞く機会があって、いろいろ聞かせてもらって決まりました。

Z: 池内先生がいかにやさしいか。人柄だね。

Z: 私は迷っていた他の先生と比べて池内先生の方がテーマの自由度が高いかなど。割と好きなことを好きにやらせてくれる感じがしたから。

Z: うん。なんでもできる。

Z: 身の丈に合った感じ。

— 今ゼミ生の方はどのくらいいらっしゃるのですか？

Z: M2が三人。M1は四人。四年生は五人ですね。

Z: 人がいっぱいいるのはいいよね。

Z: いつ来ても誰かいるし。

— それでは、テーマ設定はいつ頃に決めたのですか？

Z: テーマ設定は全く決まっていなくて、着手発表が近い時期に、先生のアドバイスで決めた人が多かった。

Z: 面談のテーマはことごとく「そんなテーマできるか！」と言われて。決めた時期は四月のGW前。

Z: 決まる人は決まる。決まらない人は決まらないですよ。

Z: 割と面談通りに決まった人はいなかった。

— なるほど。ゼミ生の方は、一人一台パソコンと机を持っていくのですか？

Z: うん。好きなパソコンを選ぶ。

Z: デスクトップって言ったらかれた。

Z: ノートパソコンは高くなっちゃうからね。

Z: みんなDELLだよ。

Z: MacかWindowsかだけ、選べます。

Z: 次からはノートにするって言うていたよ。

Z: 人が増えてゼミ室が狭くなったから、会議室でできるよ。

— このゼミ室は、池内研だけで使っているんですか？

Z: 本当はそっち側(奥)の机を他の研究室が使っていたらしいです。でも、ゼミ生がいらないから実質的に池内研だけ。

— 授業の時とゼミの時とで、先生の印象は変わりましたか？

Z: そのままでよ。

Z: ゼミも授業も無駄話が多いですね。

Z: ゼミの方が多くない？

Z: ゼミの方が少ないかと思っていた。

Z: この前、十二時越えたよな？

— え？それは夜のですか？

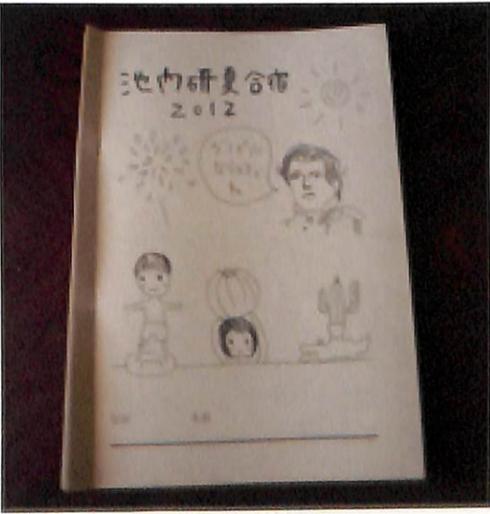
Z: そうです。十五時から十二時までとか……。

Z: この前遠隔ゼミやったよ。

Z: 先生がSkypeでゼミを。

— それは、先生が家から参加したのですか？

(笑)
I: 要するにダイエット目的。八月の終わりぐらいまでに、水着を着てもおかしくない程度までやせないといけないっていう危機感をもたせるために伊豆になった。あとはやっぱり夏は海。
(ここでゼミ生の方に新たに印刷したしおりを頂く。)



I: 血の涙を流すであろう、合宿。夜は大激論。
Z: 大激論なんですか？
I: どこかと合同でやってもいいんだけど、うち大所帯だから。

Z: プレゼンの練習をして鍛えようか。
I: プレゼンバトルやるか、やつぱり。

— 次にゼミ生の方に質問なのですが、池内研に入った理由を教えてください。

I: (笑) そんなの行くところが無いからだよね。担当教員が定年になってしまったり、他大学に移籍してしまったり……。

Z: そうですね。

Z: 家から出るのが面倒くさかったのでは？
— 取材させて頂き、ありがとうございます。

一号は知識情報システム専攻、二号は知識科学専攻の先生ということで、今回は情報経営・図書館専攻の先生である池内淳先生のゼミを訪問させていただきました。授業の時と変わらず、面白いお話を挟みながらの一時半。とても充実した時間を過ごさせて頂きました。池内淳先生、池内研のゼミ生の方々、ご協力ありがとうございました。



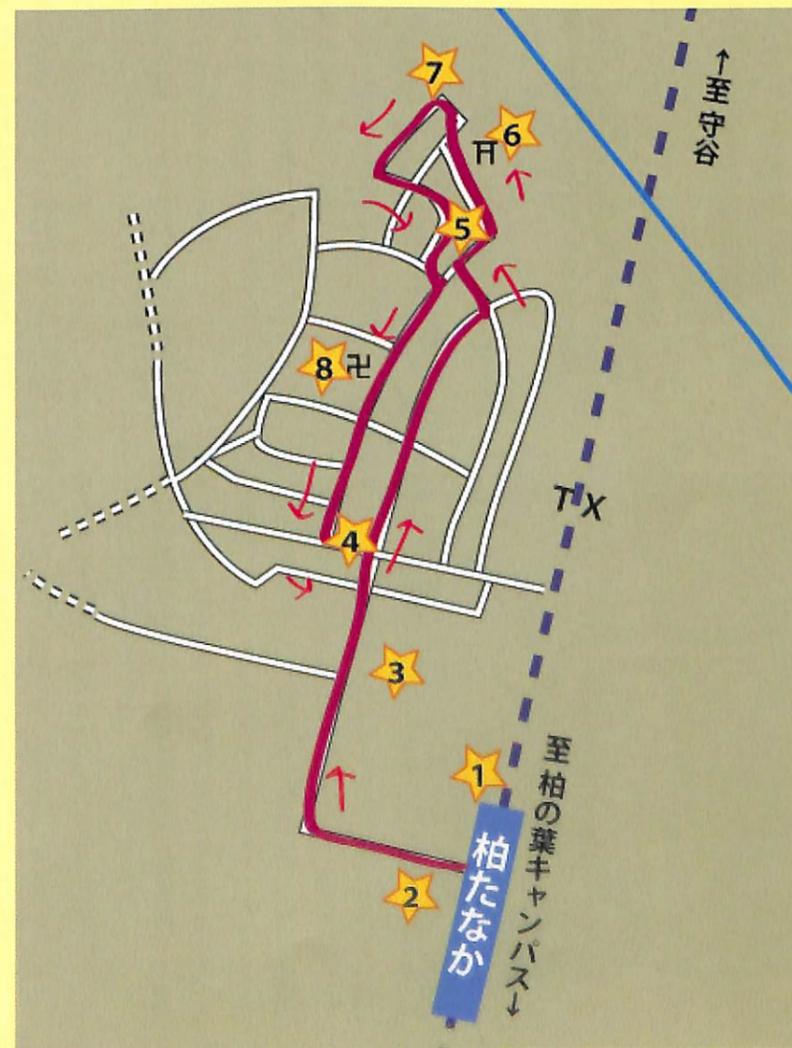
TX 途中下車の旅

春日脱出を目標に掲げて連載してきたこの企画も第3回目を迎えました。今まで印刷博物館や国立科学博物館など、ちょっと意識の高めるところへ行つて参りましたが、今回は筆者も変わって趣向も変えて気軽にお散歩してきました。

筑波大生ならまず必ずお世話になるであろうつくばエクスプレス（TX）。実は降りたことのない駅って結構多いと思います。電車の窓から見ると田んぼだらけだったりして、実際どんなところなのかちょっとだけ気になったので適当に途中下車してみました。

今回は適当に柏たなか駅をぶらぶらしてきました。初めてTXでつくばへ行った際は電車から見える田んぼだらけの風景にすごい田舎だなあと驚きましたが（失礼）、降りてみると見られない姿を地図もなしに探訪してみます。

散歩マップ



- 20 つくば
- 19 研究学園
- 18 万博記念公園
- 17 みどりの
- 16 みらい平
- 15 守谷
- 14 柏たなか
- 13 柏の葉キャンパス

1

降りて早々絶賛開発中な光景が見られます。でも来るたびに風景が変わっていく面白さがありますよね。

2

今回のルートで見かけた飲食店はここだけでした。やはり強気な看板が気になる中華料理屋さんです。入ってみましたが予算で断念…（残金三百円）

3

この辺はとにかく住宅地が広がっています。道も広くて視界も開けているのでまったり歩けます。

4

「ふるさと散歩道」と書かれた気になるオブジェを発見。3つほど道中で見かけましたが、何か決まった散歩ルートがあるんでしょうか。

5

ちょっと疲れてきたところで良い感じのベンチを発見。しかしなぜか鉄パイプに阻まれて入れず…。

6

ここで神社発見！姫宮神社というそうです。やっぱり神社はテンションあがりますね！周りの静けさと相まってとても良い感じの雰囲気です。

7

神社からさらに進むと一面田んぼが広がります。ここで行き止まりになるので引き返します。

8

さすがに地図なしでは帰り道がわからなかったため、googlemapを見てみると、近くにお寺があるらしいので探してみたがなかなか見つからず…。するといかにも普通の建物に、「円道寺」と書いてある…。（左の写真） ちょっとびっくりしました。

自販機の数…1（駅を除く）
 飲食店の数…1
 コンビニ…0
 猫遭遇数…8
 所要時間…45分（迷っていた時間を除く）

平日の昼だからというもありましたが、とにかくのどかで静かでした。筑波でわいわいするものいいけど、たまには一人でのんびり散歩したいなという時にはいいんじゃないかなと思います。

*学類1年生 Mさんの場合

「宿舎は狭くて汚い」

そんな話を聞いていた私にとって、改修後の春日宿舎は天国でした。

まずは外観。壁がカラフルに色分けされて綺麗です。え？どうせ見た目だけだろうって？いやいや、むしろ中を見せられないのが非常に残念です。それくらい中も綺麗です。宿舎は五階建てで、階によって住む人数は変わります。今年は二号棟が改修中なので住民は完全に女子だけ。それぞれの階にコミュニティーリーダーの先輩がいるので、何か問題が起きたときなど、とても頼もしいです。

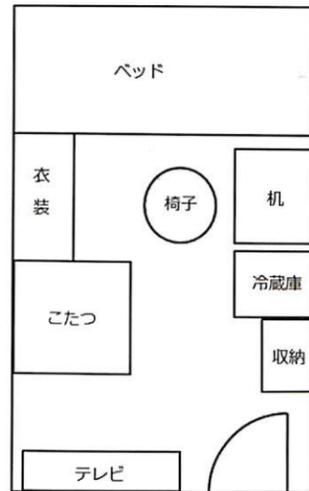
各個室にはベッドと机と椅子(移動可能)があらかじめ設置してあります。噂に聞くロッカーなるものはありませんでした…。床はフローリングです。部屋が広く感じられるかどうかには個人差がありますが、最初ほとんど物が無い部屋をみた時は「広い！」と思わず叫びました。ベッドはものすごく頑張ると窓際にすっぽり入れられます。そうすると広々としてますね。個人的に、ベッドは元々ある程度高さがあったので、ブロックなどで底上げる必要は感じませんでした。エアコンやテレビ、その他家具などは各々好きに配置して素敵な部屋を作り上げています。

補食室はガスコンロ4つ、水道2つ、それにコインランドリーと乾燥機があります。皆わりとバラバラの時間帯に利用しているようですが、たまに時間帯がかぶると6人くらいがひしめき合っています。補食室の使い方は各階それぞれです。洗剤が並んでいたり、牛乳パックが並んでいたり…。あと料理上手の子が超おいしそうなものを作っていると急にお腹が空いてしまいますね。

お風呂は一日おきに湯船にお湯が入れられます。利用時間は17:00～22:30まで。終わるのが早い。早過ぎる。深夜に平気でお風呂に入っていた人間からしてみれば、ちょっとした事件です。風呂に入りそこねたらどうするのでしょうか？大丈夫、女子の強い味方・コインシャワーです。10分100円でお湯を出してくれます。シャワー室自体は狭いですが、個室になっていて脱衣所が広いです。

談話室は改修前には色々置いてあったみたいなのですが、改修後は掃除機しか置いていないだけっぽいスペースと化しています。それでも談話室に集まって話したりしている人はわりといますね。広いので何か作業をする時にも便利です。

改修後の新しくなった春日宿舎で暮らしはじめて数か月。色々な事件や問題(Gが出たりとか…)はありますが、春日宿舎は想像以上に綺麗で良い場所だと思っています。本当ですよ！



談話室



玄関の靴箱



補食室

Open Note

このコーナーは「隣の学類生は何をする人ぞ」をテーマに学類生からの文章を紹介するコーナーです。今回のテーマは多くの学生がお世話になったであろう宿舎「宿舎」。

春日宿舎は改修工事のため、去年は男子棟のみ、今年は女子棟のみの入居でした。

今年の春、工事が終了した1号棟を見て、驚いた方も多かったでしょう。実際、室内はどうなの？外観だけなんじゃないの？さあ、そこのところ、どうなんです？ということで、今回は改修工事前の古き良き春日宿舎について学類3年生のIさんに、そして新しい宿舎について、今入居している学類1年生Mさんうかがいます。

*学類3年生 Iさんの場合

私が初めて春日宿舎に入ったのは、高校2年生の夏休み、オープンキャンパスの時でした。もちろん、その時は入居者がいるので部屋の中は見ることはできませんでしたが、補食室やお風呂等を見学させていただきました。廊下は学校みたいだと思いました。補食室やお風呂は、学生の宿舎ならこんな感じだろうな、という程度の感想。実際に入居することになるということをあまり考えず、ボーっと見学していました。

時は流れ、大学からの合格通知が届くと、必然的にどこに住むかということが話になりました。特に何も考えず、「宿舎があるならそこに住めばいいじゃない！」ということで、入居の申し込みを。無事に入居することができました。入居日に部屋を見て「広い！」と思いました。他の人はきっと違うでしょうけど。個人的な話ですが私の姉は、都内の大学に通っており、学生寮に住んでいました。私もその学生寮に入ったことがあるのですが、建物の外観や共用スペースは清潔感があり羨ましく感じましたが、一人ひとりの部屋はとても狭く細長い形でした。それに比べたら、ここは広いと思いました。実際に住み始めると、徐々にものが増え、宿舎がせまく感じることもありましたが、でも一人で住むにはこれくらいで十分だと思います。宿舎に入ったことで、同じ階に住む子などと友達になることができ、友達作りにもってこいの環境でした。

宿舎に入って、大変だった面もありました。その代表がお風呂の時間。実家にいた時は、時間なんて気にせず夜遅くの時間帯や朝に入ることが多かった私。入浴時間が22:30までというのはきつい……。サークル等で遅くなる場合は、お風呂の営業開始直後に急いで入ることも。新歓時期は、すごく混雑していましたね。とはいっても、慣れてしまえば問題もなく。夏休み中などになると生活習慣が乱れてしまう私は風呂の時間があつたことで、ある程度自分に歯止めをかけることができました(笑)他にも大変だったこともいくつか。(階によりますが)補食室の衛生環境があまりよくなかったり、洗濯物がいつまでも放置されていたり……。

宿舎にいたころに起こった事件としてはやはりGの出現と火災報知機の作動！友達から電話があり、私の住む階にGが出て、しかも私の部屋のドアの上にいるとのこと！管理人さんが撃退してくれました。もうひとつの事件、火災報知機の作動ですが、どこかの階の補食室で調理中の人焦がしてしまったらしく、火災報知機が作動。2回くらいあつたような気がします。早朝に作動した時は、その音で目が覚めてしまったり。

宿舎生活では、友人の部屋でピザをとって食べたり、廊下で長話をしたり、漫画の貸し借りをしたり、談話室で勉強会をしたり……。今ではとてもいい思い出です。

知識情報・図書館学類誌

Milk

編集員募集中！！

雑誌作りに興味がある方、
デザインをやってみたい方、
文を書くのが好きな方…

ぜひ一緒に MILK を作ってみませんか？

毎週火曜昼休みに掲示板裏フリースペースでMTをしています。
どうぞ気軽に見に来てください！

質問などはこちらへどうぞ↓

klis.milk@gmail.com

編集員募集中！！

発行者 長谷川秀彦
知識情報・図書館学類学類長

編集長 神永亜季

編集 堀内雅人

伊藤小穂

北原美穂

下城薫理

協力 宇陀則彦先生

松村敦先生

宇陀・松村研のゼミ生の方

池内淳先生

池内研のゼミ生の方

つくば院生ネットワーク (TGN) の皆様

アンケートに協力して下さった皆さん

寄稿して下さった皆さん

表紙写真提供 @tkbgame

知識情報・図書館学類誌 Milk No.3

2012年9月発行

Credit

c r o s s w o r d

解答編

ア ¹	キ ²	ノ	キ ³	タ ⁴	リ
イ ⁵	ト		ン	イ	
ア		ア ⁶	カ	イ	ミ
イ ⁷	ス ⁸	カ	ン	ク	
ガ		ネ		ノ ⁹	ウ ¹⁰
サ ¹¹	ル		ニ ¹²	ヒ	リ

知識情報・図書館学類誌

No.3

Milk

2012年9月発行